

IMAJ

(社)国際MRA日本協会機関誌

発行年月日 1993年4月5日

発行所 (社)国際MRA日本協会

〒113 東京都文京区千駄木4-13-4

TEL.03-3821-3737

FAX.03-3821-6479

発行人 住友 義輝

頒 価 1部200円

ニュース
NO.70

●世界家族の仲間入り ●信頼できる人との出会い ●新時代に必要な情報 ●心身の健康 ●問題解決の秘訣

一九七三年一月に、インド、パンチガニーのMRAセンター、アジア

「戦争と苦しみ、貧しさと飢え、汚職と憎しみ——こうした否定的なイメージだけがアジアを代表してよいのだろうか？ 世界の四大文明や四大宗教、多くの聖人や予言者を生んだアジア大陸の秘めた真理と遺産と声を、アジアや世界の人々に伝えたい。かき消されたアジアの心の奥に潜む声(still small voice)を引き出したい。それが、アジアのあるべき姿、そして未来の可能性を作り出す——」。

プラトーで開催された青年会議に集まったアジア、太平洋十二ヶ国四十名程の参加者によって、こうしたビジョンを基にしたMRAの親善使節「Song of Asia」(アジアの歌声、SOA)が結成された。インド独立の父、マハトマ・ガンジーの孫、ラジモハン・ガンジー(後に上院議員)も、「アジアは豊かな真理と乏しい実行力、静けさと喧騒、偉大な理想と絶えない対立といった相反する矛盾を内在している。多くの宗教を生んだアジアだが、せっかくの説教が必ずしも実行されていないことが分裂と人間

アジアの心の奥に潜む声を世界に伝えるために

MRA海外レポート (インド)



MRA親善使節「アジアの歌声」結成20周年を記念して元メンバーがインドMRAセンター、アジアプラトーに集う

報告 藤田幸久

ソング・オブ・アジアの本舞台

の弱点とを育んできた。アジアは人類が渴望している心の飢えを満たす役割を担っている」と、このイニシアチブを支援し、SOAを率いてアジア各地を訪問した。

融和のメッセージを発信したソング・オブ・アジア

SOAは七十六年までの四年間、インド各地、ラオス、旧南ベトナム、ヨーロッパ十ヶ国、そしてカナダを訪れた。この間二十ヶ国、延べ百人近いアジア、太平洋を中心とする青年が参加した。アジアの文化や伝統を伝える各地の歌や踊り、コミック、

◀主な内容▶

- MRA海外レポート「ソング・オブ・アジアの本舞台」1P
 - 「インドの教頭先生、日本の教育制度を研修」4P
 - コー円卓会議中間会議(東京・中国華南)4月開催のお知らせ7P
 - MRAワールドニュース 世界のMRA最近の動き9P
 - 国際MRA台湾協会が「選挙浄化運動」を展開
 - 道徳的側面からエイズ問題解決に取り組むガーナ人医師
 - 心の声に従い弟と和解する一スタディーコース便りー
 - 山崎房一の「あなたに百点満点」(第2回)15P
 - グナー・ヨンソン(ノルウェー)のニッポン印象記17P
- 「私が日本で学んだこと」○○○



●カルガリー空港でSOAを迎える酋長たち 正装で外国の客を出迎えたのはビクトリア女王、チャールズ皇太子、SOAの3回だけのこと



●国会内で一緒にSOAの公演を見るインディアン酋長（左端）とカナダ政府インディアン省大臣（その右）

マイムと共に、参加者の体験を題材にした短編劇を加えたショーを上演して回り、インド北東部の少数民族間の対立を解決した体験、インドの小さな村の水をめぐる紛争解決の話、パプアニューギニアの銅の採掘をめぐるオーストラリアのディベロップと村人との和解、といった融和のメッセージを発信した。トルコの学生運動の女性闘士、ニュージーランドの先住民マオリ族の少年ギャンググループメンバー、インド北東部の少数民族ゲリラ、インドシナの亡命者や難民などを含む異なる民族、人種、宗教から成るこのグループは、

四トンの舞台装置、大道具、衣装と共に各地をホームステイしながら訪問し、多様なアジアが一つにまとまること出来るという一目瞭然のデモンストレーションを行った。訪問先では上演の合間に市長への表敬、大学生との討論会、身障者施設や刑務所の慰問などを行ったほか、スコットランドの独立運動、スイスのジュラ地方の宗教対立、スカンジナビアの先住民（サミー族・俗称ラップランド人）の問題など、訪問先の対立の仲立ち役を担わされることと度々あり、その典型がカナダの訪問であった。

インディアンに招かれカナダに渡る

和解のメッセージを伝えるSOAの仲間にはマオリ族を初め幾つかの少数民族が含まれていた。その公演をロンドンで観たカナダインディアンの酋長一行は、白人とインディアンとの間に横たわる問題の橋渡し役を担ってほしいとの期待を込めてSOAを六ヶ月間カナダに招いた。インディアン居留地での滞在を含め、カナダ各州のインディアンと交流した結果、それまで交流のなかった英語圏のインディアンとケベック州の仏語圏のインディアンとの間に交流の道を開くことになった。居留地内で起きた山火事の消火活動に急に駆り出され、木の枝とナタによる五時間間に及ぶ奮闘で骨の髄まで消耗し切るといふ体験もした。SOAとの交流の一週間後に、アメリカ・インディアン・ムーブメント(AIM)の活動家、ネルソン・スモールレッグは、カナダ政府インディアン省の白人官吏の汚職に抗議してピストル自殺した。その父親である酋長は、息子の死の悲しみを乗り越え、SOAをオタワの国会に招いたインディアン省の大臣との会見に同行した。そして大臣との間で、インディアン省

入会のご案内

(1) 正会員 個人 年額 3,000円

法人 年額 50,000円

(2) 賛助会員 個人 年額 1,000円以上

法人 年額 50,000円以上

郵便振替口座

口座名 東京八ー三八二八九 社団法人

国際MRA日本協会

会員の皆様には、①内外のMRA国際会議やレセプションなどに参加して外国の方々と交流していただく機会の提供、②機関誌「MAJ」ニュース等の送付、③講演会、月例会等のご案内を行なっています。

●世界家族の仲間入り

●信頼できる人との出会い

●新時代に必要なる情報

●心身の健康

●問題解決の秘訣

事業の拡大と事務局基盤整備のために特別協力年会費制度 50,000円（寄付扱い・年額）を設けました。ご協力頂ける方は資料を事務局までご請求下さい。

郵便振替口座番号

東京五ー四一三六六五

口座名 社団法人国際MRA日本

協会特別協力年会費

内部の問題について率直な話し合いが行われ、解決に役立った。

まだ将来にあるソング・オブ・アジアの本舞台

七五年、青年団の元指導者、故寒河江善秋氏から初めてMRAの話聞き、その二週間後にスイスのコトに到着した私は、ちょうどコトに滞在していたSOAに加わり、それから二年間巡業の旅を経験した。赤ん坊を空中に放り投げ、落ちてくるところを銃剣で串刺にした日本兵の話、母親から聞かされたという香港のフンチーの話には胸が詰まり、父親が日本兵から教わったという「鳩ぽっぽ」の唄をパプアニューギニアのレオが口ずさんだ時には息を飲んだ。日本軍が玉砕したインパールのナガ族のビジャを含め日本による戦禍が及んだ国々の友人たちが、片言の英語しか話せない私に英語を教え、行く先々で親切に助けてくれた。日本はアジア、太平洋においては、ほとんどの国との間に過去があることを発見した時には、大きなショックと負担を感じた。しかし、日本が信頼を得るためには、戦後世代が歴史を見直すことが先決と感じ、以来、アジアの人々と出会う際には過去に対する反省の気持ちを伝えることに

している

そのSOAの結成二十周年を記念するリユニオン（再会）会議が昨年十二月末にアジアプラトールで開かれ、子供三十人を含む八十人が参加した。日本からは平沢恵子さんと私の家族の計五人が参加した。

十数年振りで再会しても、その間のギャップをまるで感じさせない強い絆が築かれていたことと、当時ほとんどが独身であった私たちが家族連れで参加しても、家族同士が初対面と感じない温かい友情が続いていたことが、何よりの励みと財産である。

かつてのメンバーは今様々な分野で経験を積み活躍している。おとなしいお嬢さんタイプだったインドのルパ・チナイは社会派女性ジャーナリストとして活躍し、最近インドで起こったヒンズー教徒とイスラム教徒との衝突に関して、警官の横暴を勇敢に告発する論陣を張った。劇の主役の一人を演じ、ひょうきんな人気者だった同じくインドのバルティバンは銀行員となり、汚職慣行の廃絶に取り組んでいる。SOAの劇中のインドシナのシーンのテーマの詩を書いたカンボジアのソン・スーベールは、父ソン・サン氏の率いる仏教自由民主党の書記長として祖国の

平和と再建のために、考古学や歴史の研究を犠牲にして、日夜活躍している。

SOAはある意味では、時代を二十年間先取りしたもので、当時の世界はその真のメッセージを受け入れる準備も聞く耳も持ち合わせていなかったのではないかと、私は皆に問いかけた。民族や宗教を超えた和解というテーマも冷戦が終わった今では世界共通の課題となったが、二十年前は、SOAが訪れた欧米諸国では、遠くかけ離れたところの少数民族のいざこざ程度にしか認識されていなかった。MRAという枠がSOAの多様性を活かし切れていなかった。



●日本人と中国人の和解をテーマにしたシーン

たのでは、という気もしている。つまりSOAの本舞台はまだ将来にあるのではないかと、私は問いかけた。あつという間に一週間が過ぎ、再会を約束し合って帰途に就きながら、カンボジア問題やインドの宗教対立、更には旧ユーゴスラビアなど旧東ヨーロッパなどの紛争解決にSOAのメッセージを活かそうという未来志向の考え方で、参加者の気持ちが一つになった。その第一弾として、三月二十六、七日にカンボジアのノンペンで開かれるMRAの国際セミナー「カンボジア和平のための信頼作り」にSOAの元メンバー数人が参加することが決まった。（終）

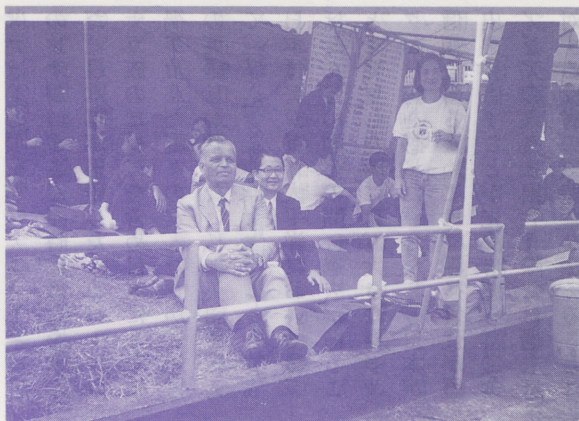


●アジアの多様性を越えた調和は、時代を先取りしていた

インドと日本の人々がさらに親しくなれるよう…

一九八九年にインドで開催された日米欧財界人円卓会議で、インドの実業家ダリウス・フォルブス氏より国際MRA日本協会住友義輝会長に、次のような要請がなされた。

「前年のMRA小田原国際会議に参加した折、小田原市内の小学校を視察し、大変礼儀正しく行動している小学生たちの姿に感銘を受けた。日本が明治維新後僅か百年余りで近代化を成し遂げた鍵は、初等教育の普及にある。インドの近代化にも初等教育の普及が欠かせない。インドと日本の教師の相互交流を図ると共に、



●受け入れ校の白山中学校で行われた小田原市中学陸上大会で応援するティブセ氏（右隣が筆者）

レポート

インドの教頭先生、日本の教育制度を小田原で研修

一日印の相互理解にも貢献—

小田原市二宮 秀夫
(衣料店経営, 67才)

日本の教育制度、倫理道徳観、習慣等幅広く研修させ、インドの教育に役立てたい」。

帰国した住友会長から小田原で引き受けてもらえないだろうかと思われ、心には結構だがこれは大変なことだと思ひ、心に少々抵抗があったが、心にこれはやるべきことだという良心の声がひらめき、お受けすることを決心した。

いざことを始めてみると、やはり役所側との折衝の仕事が大変であった。幸い小田原市の教育長は、私が小学校のMRA会長をしていた時の

教頭先生だったので、前向きに検討して頂けることになり安心した。

受け入れ態勢も整い、お待ちしていたところ、インド側の都合でキャンセルとなり、その年はとうとう実現しなかった。

翌年、マハラシュトラ州プーナ市のサルダル・ダスツル男子高等学校の教頭先生V・W・ティブセ氏が選ばれ、双方とも準備万端整えたが、来日をあと二週間後に控えながら、今度はティブセ氏の高校の校長先生一家が突然失踪してしまうという思いもなかったアクシデントが起こり、またしてもキャンセルとなった。

宿舎に予定していたホテルの予約を取り消し、受け入れ先の学校に事情説明とお詫びにうかがったところ、「残念ですね。日本とはやはり色々と国情が違うようですね。しかし折角ですから、是非実現させたいものです」という温かい励ましの言葉を頂き安心した。

それから一年が過ぎ、忘れかけていた頃、問題が解決したのでティブセ氏の派遣を再開したいとの打診があり、早速受け入れ準備を進めた。

二度あることは三度あると言う。内心、ティブセ氏に日本の地を実際に踏んでもらうまでは心配だったが今度は三度目の正直で、一九九二年



●足柄小学校でインドの伝統衣装を児童たちに紹介する

九月三日、ティブセ氏の来日が実現した。私たち家族にとつてそれからが大変だった。全く初めての体験であり、また、民間がボランティアでやることに對する官側の制度的な問題もあり、試行錯誤の連続だった。

日本食が口に合わないティブセ氏のために、字引片手にインド料理の味を聞き出し、カレー料理を中心に食べられそうなメニューを夫婦で一生懸命考えた。美味しいとかまずいという前に、どうしたら食べられるかということを考えているうちに、四十一日間があつという間に過ぎてしまった感じがする。

さて、小田原市の教育長を表敬後、

受け入れ先の学校へ向かったが、ここで大きな問題が起きた。教育長との話は、市の国際交流の担当の方が通訳して下さったので話が弾み、滑り出し好調と嬉しくなっていました。が、学校へ行ってみると通訳の問題で行き詰まってしまった。英語の話せる先生方の多い学校を指定してもらったつもりだったが、学校側は通訳はこちらで用意すると思っていたという行き違いであった。学校のことは学校にお願いしておけばそれによい、私どもでは生活のお世話さえしておけばよいと考えていたので、すっかり頭を抱えてしまった。考えてみればその通りで、現場の先生方にしてみればまさに余分な仕事を抱え込むわけだから、少々考えの甘かったことを思い知った。これは私が、プロデューサー、付き人、マネージャー、スポンサーにならなければならぬと決心した。ティプセ氏は研修の合間には、東京のMRA月例会や関西秋季大会にも参加し、各地の人々との交流を深めた。多くの人の善意に支えられ、六週間の全日程を無事終了しインドに帰国したティプセ氏より、次のような丁寧な礼状が届いたので、その一部を紹介したい。

図って下った二宮ご夫妻に心より感謝申し上げます。奥様は美味しい料理を作って下さったのみならず、実の姉のように愛情を注いで下さいました。お蔭様でホームシックにかかるともなく、日本の滞在を楽しむことができました。また、私の日本での研修を応援して下さいた全ての方々にも感謝の気持ちで一杯です。学校での体験からだけではなく、皆さんお一人おひとからも沢山のことを学びました。二宮さんは実際の生活の中にMRAの原則を生かしていらつしやる方だと思います。日本の教育システムを学ぶだけでなく、人生や人間性の原理、そして仏教の教義についても学べたことを感謝します。この友情が永遠に続くように、そして、同じ仏教の原理を共有するインドと日本人々がさらに親しくなれるように神に祈っています。

今、先生や教育関係者のための講演の準備をしています。私の体験を他の全てのスタッフと分かち合わなければなりません。この体験は私の人生における「宝」です。日本人の勤勉さ、正直さ、規律、時間厳守、国や国語を愛する心、そして豊かな伝統に敬意を表したいと思います。先ず自らの心を開き、自分の生き方、生活のあり方を変えること、つ

MRA出版物のご案内

日本の進路を決めた

。国境を越えた平和のかけ橋。

元・MRA日本駐在代表

パーゼル・エントウイッセル 著

藤川 幸久 訳

10年

ジャパントイムズ刊 定価1800円

本書は、生活に追われ、希望を失っていた日本人の中に、真の民主主義に目覚め、国際社会に復帰しようという意欲をかき立てようとした十年間の著者の体験をつづったものである。有力な政治家、実業家を回想しながら著者は、当時の日本人の平和に対する真しな努力を伝えている。著者の眼は経済大国として新たな国際的孤立に直面している現在の日本に対する警告の意味を含んでいる。特に韓国やフィリピンへの謝罪を率直に表明した当時のMRAの日本人関係者の態度は、最近の日韓関係の推移の出発点として注目される。(90年6月3日朝日新聞読書欄書評より抜粋)

○全国の書店でお求め下さい。

MRAでもお取り寄せいたします。

JAPAN'S DECISIVE DECADE

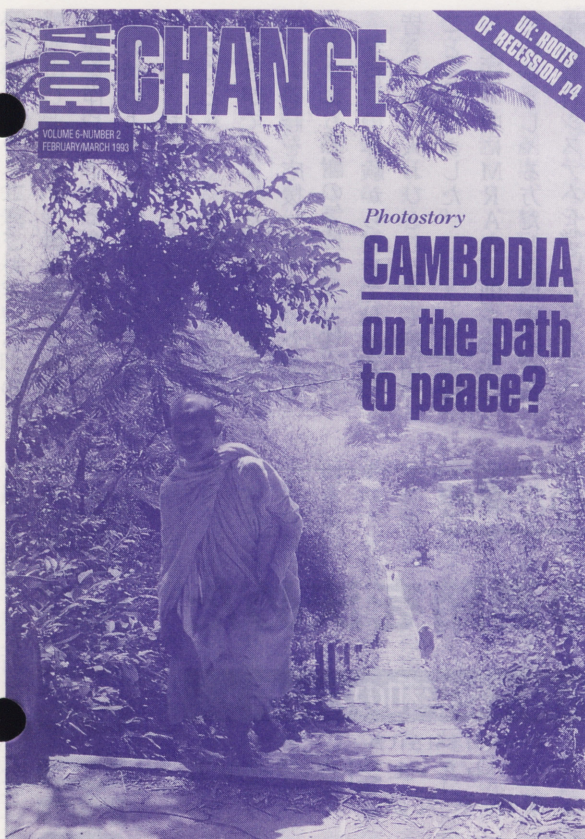




●小沢小田原市長（左端）を表敬

まり「チェンジ」することがMRAの秘訣であり、人と人々を融合させる秘訣である。そしてそれは実践を伴って初めて身に付くものだ。最近、日本の国際社会への貢献や援助の話題に関心が集まってきたが、それも携わる人一人ひとりがこの「チェンジ」の体験を経た時により大きな効果がもたらされることを信じる。そして一步一步世界の再造を目指して進んでいくことが大切だ。

タイプセ氏の感想を喜ばしく思い、大きな励みとなったことを申し上げ報告を結びたい。



MRAワールドニュースマガジン

IT'S ABOUT TIME...

CHANGE

フォー・ア・チェンジ

定期購読受付中

世界中で起こっている変革(チェンジ)とそれを担う人たちのイニシアチブを!

MRAワールドマガジン「フォー・ア・チェンジ」誌（英文年間8回発行）定期購読ご希望の方は住所、氏名、職業、年齢を明記の上、ご希望の定期購読料（1年分＝¥4,500 ※郵送料込み）を郵便振替（口座番号：東京8-38289）、又は現金書留にて下記の住所にお送り下されば、申込みを代行いたします。

〒113 東京都文京区千駄木4-13-4
社団法人 国際MRA日本協会
「フォー・ア・チェンジ」係



ビデオ「MRAの歴史」(VHS)

好評頒布中

頒価2,000円(送料込)

お申し込みは事務局へどうぞ

03(3821)3737

MRA国際会議開催のお知らせ

コー田卓会議中間会議、4月に東京と

華南（中国）で開催。国際シンポジウ

ムはNHK衛星第1で放映決定！

来る四月十八日（日）より二十五日（日）まで、コー田卓会議中間会議が東京と中国華南で開催されます。十九日の田卓会議に引き続いて翌二十日には、経済広報センターとの共催で、国際シンポジウム93「真の共生を目指す日米欧の協調と改革」が行われ、その模様はNHK衛星第一チャンネルで五月一日（土）午後三時より四時半まで放映されます。

■期間…一九九三年四月十八日（日）～二十五日（日）

■場所…東京・華南（中国）

■メインテーマ

【東京会議】

「真の共生を目指す日米欧の協調と改革」

- (1) C.R.Tの本年の中心テーマ「競争と協調」を両立させる「共生」の理念を欧米参加者との意見交換を通して明らかにすると共に、これを可能とする協調と改革の道を探る
- (2) 昨年八月にコーで発表され、賛同を得た「ミネソタの企業理念」を柱とする、各国企業が共有できる企業理念を追求する

【華南会議】

「華南経済の展望、中国ビジネス哲学と戦略、日米欧との協力の可能性」

- (1) 中国の社会主義市場経済の基盤にある哲学について学ぶと共に、日米欧と中国との協力の可能性を探る
- (2) 中国側は外国とのどのような提携、ビジネス戦略を求めているかを探る
- (3) 世界で最も高い成長を示している華南経済圏の実情を視察

コー田卓会議中間会議（東京・華南）参加予定者（三月十五日現在）

（Ｔ）は東京のみ参加

■ヨーロッパ

オリビエ・ジスカールデスタン（Ｔ）（フランス）

ヨーロツパ経営大学院（NEO）副理事長

ネビル・クーバー夫妻（イギリス）

トップマネジメント・パートナーシップ会長

フレデリック・シヨック夫妻（ドイツ）

シヨック社社長

フレデリック・パウアー（ドイツ）

MSI社社長

ピーター・フグラ（Ｔ）（スイス）

インターアリアンス銀行頭取

アルフレッド・アンブロゼッティ夫妻（イタリア）

アンブロゼッティグループ社長

アクセル・イベロート（スウェーデン）

プロコルディア社相談役

■アメリカ

ジョン・チャールトン

チェイスマンハッタン銀行常務

チャールズ・デニー夫妻

AOCテレコミュニケーションズ社会長

アレキサンダー・グッドウィン

ソフキャップ社社長

ロバート・ガーニッツ夫妻

ノースエスタン・シュネル（フヤ）社長兼COO

ウォルター・ホードリー

フハー研究所ディレクター・元ハタチアパチ副社長

兼チーフエコノミスト

ガーネット・キース（Ｔ）

ブルデンシャル保険副社長

ロバート・マグレガー夫妻

ミネソタ企業責任センター所長

ジョン・モア夫妻（Ｔ）

ベクトルグループ取締役（極東担当）

■アジア

ジェイムズ・モンゴメリー

バンナム・ワールドサービス元会長

ロジャー・バーキンソン夫妻（Ｔ）

コウルズ・メディア副社長

エリック・サイモンソン（Ｔ）

ブルデンシャル投資顧問社長

ジョン・スターンズ（Ｔ）

データカード社前副社長

ウィンストン・ウォーレン夫妻（Ｔ）

メドトロニック社会長

■日本

今井 正雄（Ｔ）

明電舎相談役

小笠原 敏晶（Ｔ）

ニフコ社長・ジャパンタイムズ社長兼会長

尾関 雅則（Ｔ）

鉄道総合技術研究所理事長

賀来 龍三郎

キャノン会長

川上 哲郎（Ｔ）

住友電気工業会長

阪本 勇（Ｔ）

住友電気工業相談役

杉野 昇

三菱総合研究所常務

住友 義輝（Ｔ）

住友電気産業顧問・国際VITA日本協会会長

豊永 恵哉

松下電器産業専務

中島 秀夫（Ｔ）

鐘紡常任顧問

長島 節明（Ｔ）

三菱総合研究所社長

奈良 久彌（Ｔ）

日産自動車副社長

堀 義一

神奈川大学経営学部教授

松岡 紀雄

東日本旅客鉄道会長・三井造船相談役

山下 勇（Ｔ）

住友ゴム工業相談役

横瀬 恭平（Ｔ）

日本経済新聞論説委員

和佐 隆弘

【国際シンポジウム'93】

共催(社)国際MRA日本協会
(財)経済広報センター

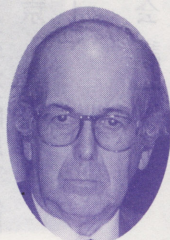
◆会費無料◆

テーマ

「真の共生を目指す日米欧の協調と改革」

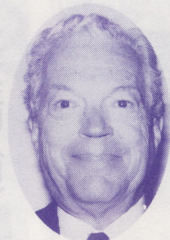
クリントン政権の誕生、ECの統合、冷戦後の地域紛争の増大等に代表される世界的な変革の流れは、世界同時不況の中で唯一貿易黒字が増大している日本に対しても押し寄せています。このような状況下で、民間経済人によるイニシアチブや国際的連携の強化が重要性を増しています。そこで国際MRA日本協会と経済広報センターでは、日米欧経済人コー円卓会議よりパネリストを迎えて、国際シンポジウム'93「真の共生を目指す日米欧の協調と改革」を共催することになりました。同時に東京及び中国、華南で開催されるコー円卓会議中間会議参加者からの提言、並びにご参加の皆様を交えての討議を通じ、有意義な会合にしたいと考えております。また、シンポジウムに引き続いて、コー円卓会議欧米参加者歓迎レセプション(有料)を別記の通り開催しますので、併せてご参加をお待ちしております。

フランス



オリビエ・ジスカールデスタン
ヨーロッパ経営大学院副理事長

アメリカ



チャールズ・デニー
ADCテレコミュニケーションズ社会長

アメリカ



ウォルター・ホードリー
フーパー研究所シニアフェロー

パネリスト



賀来龍三郎
キャノン会長



川上哲郎
住友電気工業会長



山下 勇
東日本旅客鉄道会長

コーディネーター

京都大学経済研究所所長(教授)

佐和 隆光



●日時：一九九三年四月二十日(火)午後一時～五時二十五分
●会場：日経ホール
東京都千代田区大手町一―九一五 日本経済新聞社八階
TEL03(三三七〇)〇二五一
●使用言語：日本語・英語(同時通訳付)
●会費無料(但し、事前の申込みが必要です)
参加を希望される方はお早めにお申込み下さい

コー円卓会議欧米参加者歓迎レセプション

- 日時：1993年4月20日(火) 午後6時より
- 会場：経団連会館10階 パールルーム
東京都千代田区大手町1-9-4 TEL03(3279)1411(代)
- 会費：お1人さま 15,000円

このシンポジウムはNHK衛星第1チャンネル(BS7)で
放映されますのでどうぞお見逃しなく…

放映予定日は 5月1日(土) 15:00～16:30 です

——お問い合わせは国際MRA日本協会事務局(03-3821-3737)へどうぞ——

(台湾)

国際MRA台湾協会が 「選挙浄化運動」を全国で展開

—松下政経塾の報告書より—



●選挙浄化署名運動を展開するMRA台湾協会の若手メンバーたち

これまでの台湾の選挙は、財閥や地方の実力者（ツンジャオ）が中心となつた金権選挙が横行していた。過去何度か、反金権キャンペーンが展開されたが、いずれも実質的効果は上がらなかった。そのような状況下で昨年末実施された第二回立法委員選挙（国会議員選挙）で、国際MRA台湾協会（劉仁州会長）の主導による「政治浄化運動」が、以下のように展開された。かねがね台湾の汚職政治に反対する何らかの行動を起こそうと考えていた国際MRA台湾協会は、オーストラリア、ブリスベン市でMRAによって展開された「州政府高官汚職反対運動」からヒントを得て、今回の運動を起こした。今回は、単なる呼びかけ、スローガンだけの自己満足的な運動ではなく、「私は選挙民を買収して票を買い取らない」という承諾書に署名した候補者名を新聞発表する一方、「私は候補者から絶対に賄賂を受け取らないし、賄賂を贈らない」と宣言しない候補者には投票しません」と有権者一人ひとりに宣言させるという具体的行動が伴っていた。

「清潔な政治が台湾を救う」と題した一枚の用紙に

「賄賂を受け取らない。賄賂を贈らないと宣言しない候補者に投票しない」と記されており、同意する人は署名欄に署名し、MRAまで送付する。

また、候補者も、

「買収行為を行わない。議員の資産公開を柱とする『陽光法案』に賛成する」という内容の「承諾書」に署名する。

選挙の度に莫大な金動き、票の売り買いが日常茶飯事になっている状態を、候補者と有権者の両側から改めようという趣旨である。

この運動が全国的な規模のものになったきっかけの一つは、季登輝総統自らが署名したことが、大々的にマスコミに取り上げられたことである。国民の圧倒的な信頼のある季総統が、劉会長を官邸に招いて運動の趣旨を聞き、自ら署名したことは絶大な効果があった。

まず、行政院教育部長（文部大臣）が全国の小中学校の児童、生徒を通じて両親の署名を集めるべく動いた。これに呼応して、各種民間団体がキャンペーンに協賛した。資金的援助を提供する企業も現れ、マスコミを通じて国民の知るところとなった。最終的に、六十の民間団体、宗教団体の賛同を受け、短期間の運動であったにもかかわらず、多くの選挙民に浸透した。百六十二名の候補者の署名と、六十万人を超える有権者の署名が集まった。

署名した候補者の名前は、十二月八日に新聞紙上で発表された。また、署名したが承諾内容に違反した候補は、投票日を二日後に控えた十七日に「除名」が新聞で報じられた。

■政治浄化運動の流れ

一九九二年	九月二十五日	運動スタートの記者会見
	二十六日	中央選挙委員会秘書長訪問
	三十日	最高法院検査総長訪問
	十月九日	小中学校で両親への署名用紙の配給を教育部長が許可
	二十一日	中台医大校長をはじめとする有志が街頭署名活動を行う。
	二十二日	成功大学、師範大学校内における講演

李總統の署名シーンが三大テレビのヘッド
ニュースで流される。

二十三日 中央テレビが夜のニュースで報道

二十五日 泰山食品会社が署名用紙十万人分の印刷費

と二千台の車を輸送用に提供すると発表

二十七日 太平洋文具社が宣伝用風船一万五千個を提

供

成功大学校内で署名活動

中央テレビが報道

中台医大で署名活動（八千人が署名）

雑誌「天下」の取材

成功大学有志による署名活動

国父記念館で署名活動

教育部長に協力依頼

台北市松山区の里長連合が賛同

中国時報（台湾最大新聞）が「わが家は票

を売らない」というステッカーを作りセブ

ンイレブン等の協力により配付

台北県新聞局と板橋市が五千人親子活動と

して賛同

二十五日 三重市長万人署名活動に参加

二十六日 立法委員候補者用の署名用紙を候補者に送

付

雑誌「天下」と共同で選挙浄化の漫画チラ

シを配布

二十七日 キリスト協会主催の「選挙浄化運動」記者

会見

高雄市長に協力依頼

高雄県長に協力依頼

二十九日 高雄大同デパート前で署名活動（千五百人

が署名）

嘉義市駅前で署名活動（三十日まで）
署名した候補者名と有権者の署名数を公表

十二月八日

署名候補者数 百六十二名（立候補者四百三名）

署名有権者数 六十万人

十七日 承諾内容に違反した候補者二名の除名を発表

十九日 投票日、即日開票

■選挙結果

今回の選挙は、台湾本省人を中心とした野党民進党が大躍進して三十六%の得票を得た。台湾の人たちが、自ら新しい変化を求めていることがはっきりしたと言える。また、財閥型の候補者が軒並苦戦を強いられ、落選したのも、時代の変化を示している。当選回数が多い年輩の候補者ほど落選したのも、顕著な現象だ。当選者の平均年齢も四十五才と、改選前（八十才）と比べて大幅に若返った。（大陸出身の終身議員が高齢のため引退したことも背景にある）

今回の選挙結果については、「国民党による一党支配体制をはねのけて、政治を新しく自分たちのものとして構築していこうとする胎動」と評価できる。

署名した候補者の内、五十一名が当選した。選挙区当選者の中では四十%にあたる。署名者総数に占める当選者の割合は三十二%であり、全体の平均当選率（三十六%）に比べ、やや低かった。しかし、事前の調査では当選確実だった有力財閥系の候補が落選したり、当初苦戦が伝えられていた金権批判候補が手作り選挙で当選するなど、金権政治が嫌われる傾向が伺えた。

劉会長は、「金がかかり過ぎる実態を止す効果は余りなかったように思う。

特に都市部以外では、運動の進展には時間がかかるだろう。しかし、有権者に対する教育的な意味合いは大きかったと自負している」と振り返った。

今回の運動が成功した理由として、次のことが考えられる。

①今回の署名という具体的な手法は、極めて分かり易く、しかも選挙結果

に直接影響するので候補者にとって拘束力が大きかった。

②主催団体（MRA）が中立な立場にあったため、各層、各界の支持が得られ易かった。

③季大統領が署名したことにより、行政が積極的に支援し、特に学校を通じて運動を展開できた。また、総統のカリスマ的な人気で世論を引きつけた。

④台湾で選挙浄化の機運が高まりつつあり、この種の運動が進展し易い環境が整いつつある。

松下政経塾

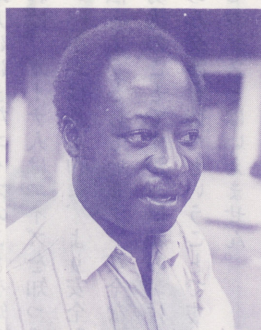
塾頭

上甲 晃

研究員

小野寺五典

クマシ(ガーナ)



道徳的側面からエイズ問題解決に取り組むガーナ人医師

——フランスMRA機関誌
シヨンジェより抜粋——

世の中で難病と言われる病気は数多いが、その中でも癌と並んでその特効薬の出現が最も望まれているのはエイズ（後天性免疫不全症候群）だろう。人類に突如として牙を剥いたこの凶暴な病は、様々な予防キャンペーンをあざ笑うかのように世界中で猛威を振るっている。エイズが医学的な課題であると共に、人間の社会生活や生き方、あるいは道徳観というものに深く関わる問題であるということが、コンドームの使用奨励に象徴される様々な「技術的」予防キャンペーンがいずれも決め手を欠いていることから明らかに

なった。しかしながら、その様な道徳的側面からエイズ問題の解決に取り組んでいる人たちはまだまだ少数派であるというのが、残念な現実である。

エイズと性病の専門医であるガーナ人医師ヤウ・アドゥ・サルコディ氏は、エイズ問題の解決にMRAの精神を生かそうと、努力を重ねている人の一人である。ガーナ第二の都市クマシでエイズ・性病クリニックを開き、地域のエイズ対策委員会でも活躍している氏に、フランスMRAの機関誌「シヨンジェ（変革）」がインタビューした。以下はその邦訳である。

●ガーナ政府が、エイズ問題を認識し始めたのはいつ頃でしょうか？

ガーナでは、エイズはまだそれほど大きな問題にはなっていません。しかし、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）は性行為によっても感染することが明確になっているのですから、時間を無駄にすることなく対策を考えなくてはいいなと思います。

隣国の象牙海岸では、成人死亡原因の第一位がエイズです。ガーナ人で最初のエイズ患者は象牙海岸で商売をしていた売春婦たちで、体調を崩してガーナに帰国しました。しかし、現在はガーナ国内でもHIV感染者が発生しています。

●アフリカはマラリアや感染症に代表される多くの医療問題を抱えています。そうした病気の治療法はあっても、エイズだけはまだどうすることもできません。

●エイズはなぜ急速に蔓延していったのでしょうか？

主な感染経路としては、性行為、HIVに汚染された血液の輸血、HIVに汚染された注射針の使用。あるいは母子感染などがあります。これらの感染原因は、それぞれに適正に対処すれば防止することが可能です。例えば、輸血用の血液は十分に検査し、殺菌するなどの的確な対策が取られたならば、新しいHIV感染者の発生はほぼ防ぐことができるでしょう。人々の性生活もそうです。当初欧米では、エイズは男性の同性愛者間の問題でしたが、アフリカでは、異性間の性交渉による感染が一般的です。人間

の行動を変えることは、そう簡単ではありません。エイズの治療法が発見されていない現在でも、人々は危険が伴った行動をとります。電車の前に立てば電車にはねられると言われたのに、電車の前に立ってしまうようなものです。

●なぜ、予防キャンペーンは失敗したのでしょうか？

それは保健教育の問題だと思っています。アフリカでは全ての人々がラジオを持っているわけではありませんし、近代的な通信手段を持っていない人が沢山います。地方にはまだエイズのことを知らない人々さえいます。しかし、全体的に見れば、ガーナ人はエイズを知っています。

予防キャンペーンは基本的に、より安全なセックスと保健教育の二つのメッセージを伝えるようとしています。安全なセックスとは、相手が感染していないことは勿論のことですが、信頼のおけるパートナーや長年の付き合いがある相手とのみ交渉を持つということです。街頭で出会った相手との性行為は、安全なセックスとはいえません。

●「誠実な夫婦関係」ということを仰りたいのですか？

はい、その通りです。

●それでは「安全なセックス」のスローガンは充分に浸透していないということですね？

そうですね、コンドームを使えばHIVに感染しないという一般的な意識がありますが、コンドームは百パーセント安全ではありません。コンドームの性能テストは、完全とはいえないのです。実際に使用された結果と、テストの結果が一致するわけではありません。HIVは実験で使用されたコンドームの最小の粒子よりも小さいと指摘する研究があります。産児制限のためにコンドームを使用した夫婦が、避妊に失敗したケースも多々あります。

発展途上国が受け取るコンドームのほとんどは、援助物資です。それらは

各国それぞれの規格で製造されたものであり、暑いアフリカではその信頼性が低下してしまいます。例えば、イギリス製のコンドームには使用期限が書いてあるはずなのに、最近ガーナに送られたものには期限が書いてありませんでした。これでは使っているのかどうか、誰にも分かりません。これは、まるでゴミを捨てるにも等しいことです。

●予防キャンペーンは道義的問題を解決していません。人々は薬物注射への警告は受け入れても、男性同性愛や無節操な性交渉の危険を説く人には道徳主義者の烙印を押そうとします。

●様々な予防キャンペーンにもかかわらず、エイズは世界的規模で増加しています。これはコンドームの使用をいくら奨励しても、道徳的側面が欠けていたのでは効果がないことを示しています。

●そうしたキャンペーンの多くがコンドームということに限定されてしまうのはなぜですか？

現代では、人がやりたいことは自由にやらせるべきだと考えられています。セックス産業はとてめ強大です。政府や官庁は「その自由を多少規制しろ」とは言いたくないのだと思います。

しかし、これを薬物撲滅キャンペーンに例えてみましょう。ヘロインを使っているといけないと人に忠告することが、その人の自由を制限していることになるのでしょうか。麻薬がその人の将来のためによくないと思うから忠告するわけで、エイズについても同じことではないでしょうか。エイズには死が伴うのです。

●性産業がまだそれほど大々的に組織化されていないアフリカでは、道徳的側面からの呼びかけはより快く受け入れられていますか？

アフリカですら、エイズについて語ることは、人々の性的行動を改めさせる意図があるのとらえられています。

●アフリカは一夫多妻で知られていますが、妻の一人が感染すれば、みんなに移ってしまうでしょう。西洋では、アフリカ人は誰とでも見境なく性交渉

最新刊

MRA体験記

出逢い

NO.4

好評頒布中！

＝ 47ページ頒価450円 ＝



お申し込みはMRA事務局へどうぞ

●エイズ予防キャンペーンの根底には何があるのでしょうか？ 恐怖ですか？

を持つと思われているようですが、そんなことはありません。他の人たちと何ら変わるところはありません。私はイギリスに留学したことがありますが、そこでは行きずりの人々が時にはまるで一杯のお茶でも飲むように気軽に交渉を持っていました。

病気が広がり始めた一九八一年当時、人々はエイズはアフリカの問題、または男性同性愛者の病気であるにとらえていました。しかし、今では病気は通常の異性間交渉によって広がっています。アフリカ人や男性同性愛者の病気だと考えられていた頃は、自分たちに危険はないと思っていた人々が、突然関心を持ちました。とても残念な事態だと思います。

エイズがどこから発生したのかということについては、全く興味はありません。私の関心は、共通の解決策を見いだすために、全世界が一つになることです。家の中に毒蛇がいたら、その蛇がどこから侵入したのかを論じる前に、殺さなければなりません。

メルボルン（オーストラリア）

心の声に従い 弟と和解する

——スタディー・コース便り——



それとも人道主義ですか？

恐怖を感じるのはほんの短い間だけです。何か別のことが起きれば、その恐怖は忘れ去られてしまいます。人々は、もしエイズを阻止できなければ人類がどうなってしまうのかということを真剣に考え、エイズと闘っているのだと思います。なぜなら、エイズは燎原の火のように広がっているからです。

●最後に、あなたのキャンペーンはガーナではどのように受け止められますか？

私たちのように道徳的側面からこの問題を考えていこうとする人間は、まだ多数派ではありません。しかし、一滴の水が大海を作るという信念を持っています。

安延庸氏（韓国湖西大学四年生）は大学を一年間休学し、昨年一月より三ヶ月間、オーストラリア、メルボルン市郊外のMRAアジア・太平洋センター・アーマで開催された青年MRAスタディーコース「効果的な生き方の実践」に参加した。コース終了後も、アーマに滞在し、さらに研修を重ね、十一ヶ月間、オーストラリアに滞在した。

昨年十二月七日より二週間、韓国への帰途日本に立ち寄り、関西MRA月

例会や東京での総会等へ参加したのを始め、日本の青年たちとも交流するなど、日本への理解を深めた。オーストラリアや日本での体験、そして感じたことを次のように語った。

「まず、私が受けたMRAスタディーコースについてご紹介します。

今回は九ヶ国から十六名が参加しました。コースを通して、お互いに多くのこと、例えば、お互いの習慣や生活の仕方の違いといったことなどを学びました。特に今回、それぞれ二人づつ参加したカンボジア人とビルマ人から、彼らの国で今までどのような悲劇が起こり、また今も起こりつつあるのかということなどを知り得ることができました。彼らと知り合ったことにより、友人たちの故国として、彼らの国に関心を払えるようになりました。

私個人にとっても、このコースは多くの貴重な体験をもたらしてくれました。私には弟が一人いますが、たった二才しか年が違わないのに、私はいつも彼を子ども扱いしてきました。一緒に話したり、何かを相談するには若過ぎると思っていたのです。

コースの最後に、四日間のキャンプに出かける機会がありました。そのキャンプでのある朝、静かな時間を持ち、心に響く声に耳を傾けていると、弟に対する態度がいかにも間違っていたかということに気がきました。そして我々の仲がよくないことを残念に思ったのです。突然、弟に手紙を書いて謝るべきだという考えが心に浮かびました。兄が弟に謝るということは普通余りありませんが、実行しようと決心しました。しかし、その時は弟の住所を知らず、手紙を出せませんでした。弟は兵役で軍隊に行っており、正直言って、それまでは彼がどこにいるのかということにさえ、関心を払っていませんでした。キャンプからアーマに戻ってすぐ、弟から次のような手紙が先に届いたのです。

『お兄さんとの仲が悪かったのは自分の責任です。仲良くしようという努力を怠っていました。許してください。』

私はそれを読んでとても驚き、また恥ずかしく思いました。そこで、弟にすぐ返事を書き、自分が間違っていた点についても謝りました。それ以来、弟とはとても良い友達になりました。

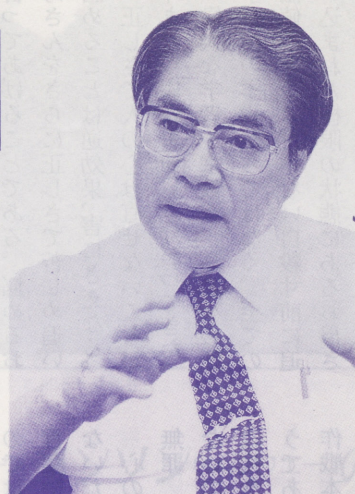
コース後のアーマでの滞在費を捻出するため、アルバイトをする必要がありました。幸い、メルボルンのある韓国企業で働けることになりました。上司の韓国人は、いつも私のためにお弁当を用意してくれたり、時々家にも呼んで美味しい韓国料理でもてなしてくれたりして、とても親切にしてくれたので、感謝の気持ちを表わす贈り物をしたいと思いました。韓国では目上の人に贈り物をする時は、お酒か煙草を贈るのが普通ですが、マネージャーのためではなく、彼の娘のために何かを買わなければならないという考えが心に浮かびました。早速、可愛い人形を買ってマネージャーにこづけたのですが、その日がまさに彼女の誕生日だったのです。勿論、私がそんなことを知っていたわけではありませんが、マネージャーは娘の誕生日を思い出させてくれて有り難かったと、とても感謝してくれました。

こうした体験を通して、心の声を聞き、それに従う生き方をすべきだという、強い確信を得るに到りました。

コースの最中に、会ったことのない日本のMRAの人から手紙を受け取りました。驚いたことに、その手紙は韓国語で書かれていました。彼は手紙の中で、コースで沢山のことを学ぶようにと勇気付けてくれました。それ以来、彼と文通が始まりました。

ある日、韓国への帰途、日本に立ち寄ることを決意しました。今回日本にくる以前には、私も多くの韓国人がそうであるように、日本人に対して偏見を抱いていました。しかし、この偏見も、日本に着いた時、飛行機の中で会った一組の日本人の夫妻によって消し去られたのでした。成田空港に着いてすぐ、トラブルに見舞われました。空港で出迎えの人に会えなかったのです。どうしていいか途方に迷いましたが、幸い、東京に韓国人の友人がいたので電話をかけようとした時、その日本人夫妻に再び会ったのです。彼らは、私にテレフォンカードを使わせてくれたり、道順を教えてくれたり、私の重いカバンを運ぶのを手伝ってくれたりしました。その他にも日本での滞在中、私に本当に親切に接してくれ、快適に過ごせるようにしてくれた多くの日本人に会うことができました。

日本と韓国は親しい友邦になれると信じています。もっとお互いに頻繁に会い、お互いを正しく知り合うべきだと思います。私も、両国の関係改善の一助となればと望んでいます。



第二回

「心で思うことは 自由、すべて無罪」

山崎房一の あなたに百点満点

やまざき ふさいち 昭和元年山口県生まれ。青年時代、ロンドンでMRA運動に参加。現在、新家庭教育協会理事長。母親心理学訓練講座や父親講座などの活躍がテレビ、マスコミで広く取り上げられている。

◇

数年前、NHK教育テレビでユング心理学講座が連続放映されたことがあった。その中で見たドラマが余りにシヨックだったのか、今も鮮やかに覚えている。

大筋はこうである。

結婚適齢期になった仲のよい姉妹がいる。姉は優しくて控えめ。妹は明るくて活発な性格。

姉はある男性に秘かに恋をしている。いつかは彼と結婚したいと願っている。しかし、姉から見てもその同じ男性が好きなの素振りなので、彼女は自分の気持ちを抑えて、妹に

は彼を好きなことを隠している。

妹と彼がただならぬ仲だと知って姉はシヨックを受け、寝込んでしまった。

妹は姉が彼に恋しているようとはつゆ知らず、教会で彼と華やかな結婚式を挙げた。そうなるでも姉は彼のことを忘れられない。ベッドの中で様々な思いに苦しむ。

姉の容体が急に悪化した原因は、妹を素直に祝福できないどころか、「嫉妬や恨みを持ってしまう自分は罪深きもので、罪を犯している」と自分を厳しく責め続けているからであった。その悶々とした気持ちを妹に

遠慮して誰にも告白できず、その苦しさに押しつぶされてしまったのである。

妹夫婦が花束を持って病室に入ってくる。妹が姉の冷たい手をそっと握り締めた時、姉は天国へ召されていった。

私は、姉の気持ちを思っ、この胸をかきむしりたいほどやりきれない気持ちに襲われた。

◇

同じく平成四年二月二日の日曜日、午後八時からNHK大河ドラマ「信長」を見ていた時のことである。

山道で武士崩れの追い剥ぎが旅人を襲い、太刀で切りつける。カトリックの若い僧が、その追い剥ぎの前に立ちはだかつて負傷した旅人を救う。

画面が変わって、上半身裸になったこの若いカトリック僧が、自分の手に大きなロープを持って、力一杯自分を殴りつけている。殴る度にロープが背中やわき腹の皮膚に食い込み、その跡には痛々しく皮膚が破れて鮮血さえにじんでいる。

疑問に思った旅人が、「なぜ自分で自分をそんなに痛めつけるのですか」とたずねた。

「私は旅人を心から助けたわけではありません。恐くて逃げ出したい気持ち

ちが起ったのです。その気持ちは罪です。神様にこうして許しを乞っているのです」

と言いつつ、そのカトリックの若い僧は自分への鞭打ちをやめなかった。

この若いカトリック僧や亡くなった姉の気持ちが、私には痛いほどよく分かった。同じ経験をしているからである。

私も「心に思ってしまう恨みや憎しみ、嫉妬などは罪悪である。だからその様な気持ちが起ることはない」と幼い頃から母親に叩き込まれた。だから、そのことに一つも疑問を持たず、正しいことだと鵜呑みにして信じていた。私の性格は短気。それに執念深い。すぐ頭にきて怒る。嫌なことがあれば私は、すぐ復讐を考え、決して相手を許さない。長年、私の嫌な性格に手こずった妻に聞けば、「そうなんですよ」と、私の喧嘩の終始末をしたり、耐えてきた裏話を事細かに話すに違いないでしょう。妻が私の性格に困った以上に、私は自分の内面の葛藤にのたうちまわっていたのである。悪い心を起こす自分を責め続け、ひどい頭痛に悩まされ、いくら頭痛薬を飲んでも治らない。この頭痛は母からの遺伝だから

ら仕方がないと諦めていた。

「悪い心を起こしてはいけない」という考え方を徹底的に私に叩き込んだ信心深い母も、どうしても心に思ってしまう悪い心を起こす自分を責め続けていたのであるうか。天国に召されるまで、母のひどい頭痛は治らなかった。



昭和五十七年一月から母親講座を始め、今も続けている。学校へ行けなくなったり、暴力を振るう子、非行に走った子などを抱え、地獄の底を這い回っているような苦しみの中、一家心中までも考えたお母さんも来られる。

この絶望のどん底のお母さんの心を癒し、救ってあげるには、今まで教え込まれた人の道や道徳など、そして、正しいことだと信じてきた価値観などは全く無意味、無効果だと言ってあげることである。悩めるお母さんをさらに正しきで苦しめ追い詰めることは逆効果、害にさえなる。

正しきで人の心は直せないことが今までの体験を通して分かってきた。偉大な学者や宗教家、高名な心理学教授の学説からではなく、全ての価値観を受け付けない自殺寸前に追い込まれた極限の状態にあるお母さんと私の体験から、次のことを発見

した。この発見は、今までの価値観や宗教の教えなどを根本から覆すかもしれない。極端な言い方ではあるが、つまり、こういうことである。

「人間は、心の中に恨み、憎しみ、呪い、嫉妬、復讐など、いかに極悪非道な考えを起こし、それを持っていたとしても、心の中にある限り、それは罪悪ではない。それは全て無罪である。安心していい。具体的な被害を誰にも与えていないのだから」。

この考えで一番救われたのは私自身である。あれほど長年私を悩まし続けた頭痛が消えてしまった。心の中にあつた様々なこだわりも頭痛と同じようにどこかへ蒸発してしまつたようだ。

世の中は、何を言つたか、何をやつたかのみが問題にされ、何を思つたかは問題にされない。

愛も罪も人の心の中に存在するものではないのではないか。それは、言葉や行動の中にのみあるものではないだろうか

心の中の様々な動きは全く自由で無罪、何物にも束縛されるものではないのである。生存競争の激しい弱肉強食の世の中、いわば戦場だ。そうであれば、心の中は大本営の中の作戦本部といったところ、その動きは全て秘密なのである。

山崎房一先生の

心が軽くなる講座のご案内



●お問い合わせはザ・シチズンズ・カレッジ事務局
03 (3797) 1859までお願いします

日時 **5月19日(水)** ●受付時間/PM6:00~
開演時間/PM6:40~8:30

■会場/よみうりホール(有楽町)

■参加費/3,600円(税込) (通常の個人会員券、
法人会員券も利用可)

■定員/1,000名

■お申込み/郵便振替用紙で参加費をお支払い下さい。

入金確認後チケットを郵送します。

口座番号 東京6-538981

ザ・シチズンズ・カレッジ事務局

■お願い/会場での録音・録画はお断り致します。

第2回「心が軽くなる講座」

激動期の「勝者の生き方」

—百点満点のマインドコントロール—

大自然の大きな力は、あなたを「百点満点」で創造されています。しかるに、自分に50点をつけてしまうなら50%の人生も送れません。肩の力を抜いて100%自己肯定し、フッと心を安めましょう。こうしてこの講座に臨んでください。この講座は過去12年間のユニークな能力開発の実績にもとづき、ビジネス社会における人間関係及び家族関係を最良の状態にし、自己の能力を最大限に発揮する画期的な自己操縦法の講義です。

A black and white photograph of a young man with glasses, wearing a plaid shirt and suspenders, standing in a wooded area with a waterfall in the background.

三年前、日本に五カ月間滞在した私は、私の国から遠く離れた日本との関わりを保つために、オスロ大学で日本語の勉強を始めました。そして、遂に昨年の夏、二度目の来日を果たしました。三カ月という日々を、勉強や旅行に費やし、今回もまた前回と同様に、数多くの感想や考えを得ました。私にとって完全な異文化

(オスロ大学日本学科3年生, 22才)

「禁止の国」ニッポン？

日本は、百二十年前まで鎖国を続け、外国人を遠ざけました。国民は

これらの日常生活上の諸規則は、人々を支配する目的で徳川幕府によつて定められ、大變効果的に機能しました。地球上の他のいかなる場所においても、単一権力下で、二百五十年の長きにわたつて平和が続いた例はありません。

日本がその状態から脱し、近代化を始めてから、僅か百二十年しかたっていないのですから、過去のパターンがそのまま残っていたとしても不思議ではないのです。日本の神社の入口には、「ゆつくり歩け」という標識が見受けられますが、まさにそこなのです。日本人の大多数はこれらの標識を尊重してきましたが、これこそが今日の日本の驚異的に込み合った共存を可能にした理由の一つだったのです。もし日本人が皆、自然公園の中の川で泳いだり、木登りを始めたりしたら一体どうなるでしょう。その点も私の母国のノルウェーとは大きく違います。

日本人の国民性と行動様式もまた私の好奇心をそりました。集団主義もその一つですが、その背景としての農耕文化、つまり古代より農民たちは米の栽培のために最大限の協力を必要としたからであるという説明がなされています。さらに興味深かったのは、この日本人の集団主義を探究することによって、「無表情な日本人」の源にたどりついたことです。欧米には、日本人は海外で真の顔を見せていないという批判があります。スマイルもお辞儀も結構ですが、一体何を考えているのかさっぱり分からないというわけです。

日本人は、他人に本心を見せないことに慣れています。日本社会では個人的感情は重要視されません。その理由を求めていくうちに、日本のフェンシング、つまり崇高な武芸である剣道に突き当たりました。

剣道の起源は、農民たちが米や家族を略奪者から守らなければならなかった古代に遡ります。他の日本の武道同様に、剣道でも防御というところが強調されます。その理由は簡単で、防御側は攻撃側に対して常に有利な立場にあるということです。防御側の剣がまだ空中にあるうちに、反対の剣がまだ空中にあるうちに、反撃に転じることが可能です。その結



●ホームステイ先の家族や友人と談笑する筆者（右から3人目）

果として、攻撃側は今なら相手は素早く動けないというサインを、相手の表情や刀を持つ手の動きなどから常に察しようとしします。言うまでもなく、恐れやためらいの表情を敵に見せることは、敗北への第一歩です。比較的平和であった日本社会は、十世紀前後から武家集団の影響を受け始めました。それ以来、剣による支配が社会の掟となっていました。「武士道」が形作られ、日本と日本人に永続的な変化をもたらしました。文が武を制し、真の感情は家族の中にだけ閉じ込められた社会が発達していったのです。武家支配の崩壊は僅か百二十年前のことであり、今世

紀に入ってから、日本の武士の伝統が息を吹き返したのを世界は目のあたりにしました。日本が歴史上初めて敗北を喫した第二次大戦終了後は、日本はその伝統から侵略的な要素を効果的に捨て去ってきました。

私たちは、日本人の意味不明の笑いが不自然であると非難しがちですが、その非難は日本人によって私たちは返されます。ある日本人の友人は、大げさな動作で冗談を飛ばしながら、延々と喋りまくる賑やかなアメリカ人と一緒にいることが、彼女にとつていかに難しいことであつたかということ私に説明してくれました。それは彼女にとつて、とても不自然なことだったので。

日本語を学んでいると、日本人の考え方に關して多くのことを発見します。例えば、他人と話している時、その人の考えに合わせて話すということがありますが、贈答の習慣も、同様の考え方に基づいています。日本人はまず客人に楽しいと感じてもらわなければ、満足しません。日本でお客さまとして扱われることは、大変快適なことです。行く先々で、最高のもてなしを受けることになりました。私の外国人の友人二人も、日本で受けたもてなしに対して、どのように感じたらいいのか悩んで

いると語っていました。私自身はもっと利己的な性格なので、そのような心配はなくて済みました。三カ月の日本滞在後、沢山の贈答品をスーツケースの中にどうやってうまく詰め込んだらいいのかということに頭を悩ました。

集団としての考え、そして、相手（他人）に合わせるということとは、日本人の協調能力の重要な要素の一つです。集団としての意見の方が、個人の意見よりはるかに大切とされるので、日本の意思決定は、通常長いプロセスを経なければなりません。しかし、全ての議論が終わり、コンセンサスが得られたならば、その決定事項は驚くべき迫力とスピードで達成されます。

最初は計画に強く反対していた人たちが、集団としての決定がなされるや否や、全力を上げて任務にあたるといふことは日本では普通です。その特に印象的な例として、第二次大戦中の山本五十六日本連合艦隊司令長官が挙げられます。日本の海軍力ではアメリカに太刀打ちできないことを確信していた山本は、開戦前、大臣たちにもその見解を度々表明していたにも関わらず、開戦の決定がなされると、全滅するまで諦めることなく徹底的に戦い抜くことを自らの

艦隊に命令しました。山本は一九四三年に、それまでの戦いへの自分自身の責任を果たすために、敵の攻撃による確実な死を予想していたにもかかわらず、アメリカ軍が制空権を握るソロモン上空に向けて飛び立ちました。

このエピソードは、日本人にとつて集団主義というものがいかに重要であるかということを示しているだけでなく、私たち外国人が歴史を深く学ぶことによつてのみ理解が望める、日本人の行動規範と責任の取り方を示しています。

宗教の分野における際立った文化的相違

日本の宗教事情という点に關しては、どんなに長くそれを探究しても、自分には決して理解できそうもないという結論に達しました。宗教の分野において、日本には際立った文化的相違があります。それにそもそも当の日本人自身が、自らの宗教的慣習を理解するのは難しいことだと考えています。

日本では、キリスト教は極めて少数派ですが、その、簡潔かつごまかしのない公正な教えは広く尊敬を集めています。日本の神道と仏教には、キリスト教に見られるような、人の

生き方を根本的に変えるだとか、神の教えで説き伏せるとかいう、徹底的な厳しさは見られません。「調和」が強調され、変化は日々の行いを通して徐々に達成されるものとされています。また神道と仏教の核には、自然に対する深い畏敬の念があります。

クリスチャンの考え方は、「外に出て世界を支配せよ」という、アダムとイブに神から与えられた言葉に基づいています。「産業革命がキリスト教文化圏から起こったのは偶然ではない、科学と研究が存在しなかった仏教世界からは起こり得なかった」と、日本の友人が指摘しました。自然との健全な関係という観点からは、クリスチャンとして日本の宗教に学ぶ点が多々あると感じます。

自分自身が理解していないものについてあれこれ言うことは控えたいと思います。日本の宗教的生活の大部分は空虚なものであると考えざるを得ません。何人かの素晴らしい仏教徒や神道信者を私は知っています。その一人は、大変印象的な真理を説いてくれたし、新約聖書の日本語版さえ私にくれました。しかしながら、このような深い信仰を持つ人たちは極めて少数派でしょう。寺院で人々がコインを投げ入れ、仏像の

前で頭を下げているのを見るにつけ、この人たちは単にその偶像を崇拝しているだけなのか、それとも仏教の真理を求めているのか、どちらとも判断がつかかねました。

私が日本で学んだこと

私が日本で学んだことをこのレポートに記したいと思ったわけですが、それは単なる日本語の勉強や日本を知ること以上のものでした。日本を知ろうと真剣に学ぶ者は、誰であろうと感動せずには済まないでしょう。

まず、何かをやり始めたならば、とことんやり遂げるということを学びました。私の会った日本人で、物事をいい加減にやる人を出すことはできません。どんなに些細なことでも、完璧に処理されます。そのような例は沢山ありますが、典型的な例として、一日十三時間働いた後、私のためにその日の最後の一時分を使って、翌朝の汽車の予定を組んでくれた友人や、私が富士山のご来光を見られるように、二度にわたって登山道具を用意して真夜中に車で登山口まで送ってくれた友人を挙げることができます。

次に日本で学んだことは、言葉で

MIRAビデオのご案内

日本語吹替版
(VHS/ベータ)

明日を愛するがゆえに

——イレーヌ・ロー夫人の生涯——

頒価 5,000円
(郵送料サービス)

ドイツを仲間外れにして
ヨーロッパの再建ができますか？

独仏の歴史的和解は勇氣ある
人々により始められ後のEC
設立の礎となった。

好評頒布中！



●イレーヌ・ロー

1898年生まれ。第二次大戦中、反ナチ抵抗運動の医療班を組織して闘った。三男をゲシュタポに拷問され、フランス人そして母親としてドイツとドイツ人を心から憎んだ。戦後間もなくスイスのMIRA世界大会に参加したが、ドイツ人がいるのを見て直ちに帰ろうとした。しかし、ブックマン博士に「ドイツ人を除外してどうしてヨーロッパの融合と再建が出来るのか」と説得され、三日三晩寝ずに悩んだ末、ドイツ人を許し憎しみを謝罪した。その後、独仏間の関係改善に尽力し、後のEC設立のきっかけを作った。マルセーヌ選出の国会議員や仏社会党中央執行委員等も務め、世界各国を訪れ融和を説いた。1987年、88歳で没する。

お申し込みは
MIRA事務局へ

03(3821)3737

慎重に選ぶということです。その背景には、言葉の障害とお互いの考え方の違いという、二つの理由があります。試行錯誤はありましたが、誤解されないような方法で、自分自身の気持ちを表現するように努めました。最も私の日本語の語彙の力では、どうしても話すべきことを喋るのが精一杯で、半分嘘をつきながら弁明したり、意地悪く批判したりすることなどとてもできませんでした。

三番目に学んだことは、自分の祖国とルーツに感謝することです。日本の歴史を学んだ後、私の興味はノルウェーの歴史に向きました。そして日本人家庭の団結ぶりを見て、私の家族のことをとても大切に思えるようになりました。

最後に、私は日本から、日本人にとって一般的ではない習慣を家に持ち帰りました。それは、ドアを通る時に必ず頭を下げる癖です。何度も何度も日本の低いドアに頭を打ちつけた結果、私の「ドアの危険に関する潜在的な認識」とでもいうべき感覚が研ぎすまされました。そのような条件反射的な動作が、外見的にも態度の上においても、若干の謙虚さを産み出すとすれば、ノルウェー人の私にとっては好ましいことと言えるでしょう。(終)

事務局近況

●一九九三年MRAコー世界大会(七月四日(日)～八月二十二日(日))の全体プログラムが次のように決まりましたのでお知らせします。参加を希望される方は事務局までお問い合わせ下さい。

◇開会式「形造られるヨーロッパ」

七月四日(日)～十五日(木)

◇MRAフォーラム「個人と世界をつなぐMRA」

七月十八日(日)～二十八日(水)

◇地域問題会議「危機に直面する地域、危機を脱しつつある地域——互いの経験に学ぶ」

八月二日(月)～十二日(木)

◇産業人会議「コーフォーラム」『明日の経済に必要な道義的基盤』

八月十五日(日)～十九日(木)

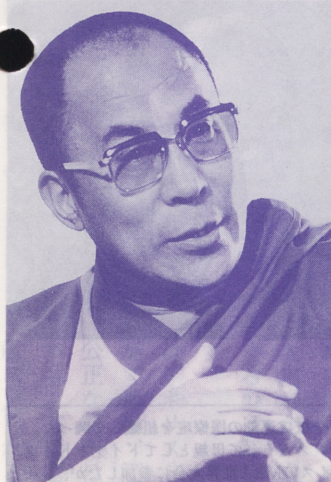
◇閉会式「今後の展望」

八月二十日(金)～二十二日(日)

●第四回MRAアジア太平洋青年キャンプ(APC)が、十八才から三十五才までの参加者を対象に七月二十一日(水)より三十日(金)まで香港で行われます。二十七日から二十九日まで中国も訪問します。共通言語は英語が使用されます。参加費は三六〇米ドルで、期間中の全ての宿泊費、食費、交通費を含みます。興味のある方、または参加を希望する方は、資料を事務局までご請求下さい。

◇MRA関係ビデオのご案内

ダライ・ラマ14世 からのメッセージ



愛と 心の平和

編集・発売 アジア・フォーラム
企画・制作 (社)国際MRA日本協会

好評発売中!

VHS (20分) 4,500円 日本語吹き替え

◇MRA関係書籍のご案内

アジアから人類へのメッセージ 宗教が語る 世界の平和

(社)国際MRA日本協会 編 PHP研究所 発行

宗教が語る世界の平和

アジアから人類へのメッセージ



ダライ・ラマハイデン
ツェン・カワン・テン・セン・カンジ
現代宗教の道徳と平和を語る

定価1,500円(税込)
四六判上製 208頁

推薦のことは

米ソを中心とした二極冷戦構造が崩れ去った現代。21世紀に向けて新秩序の構築が求められているが、いまだ暗中模索の状況にある。この混沌とした時代の一つの道筋をつけるものは一体何なのか。

『宗教が語る世界の平和』では、ダライ・ラマ、ハイメ・シンなど四大宗教の指導者達が、良心、道徳等に基づいた21世紀に向けてのアジア・日本の貢献・役割を示唆していく。

本書は、国際貢献、モラルの再構築が求められる日本の今後のあり方を問う好著である。

松下電器産業㈱相模支店

山下俊彦



アジアを越え、宗教を越えて、今、非暴力の理念を世界へ